

特別シンポジウム

『中国のいまを語る』

主催 江戸川大学駒木学習センター

後援 流山市教育委員会

日時 2017年11月3日(金) 13時00分～15時00分

会場 江戸川大学 B棟 メモリアルホール

定員 300名 **受講料** 無料

申込み 先着順(事前申込み不要)

トランプ米政権誕生により、世界は保護主義とグローバリズムの駆け引きが顕在化した形に見えますが、それは欧米を主眼とした視点に過ぎません。今やアメリカを向こうに回し、外交だけでなく経済、文化などあらゆる面で超大国ぶりを発揮している中国。その存在感は強まるばかりです。一方で政治体制をはじめとする国内事情や中国がこれから世界で何をしようとしているかについては、我々からはなかなかつかみにくのが実情です。

今回は「中国のいまを語る」と題して、中国の外交・政治を研究するお二人をゲストにお招きし、中国の外交について、また内政についてお話をうかがいます。習近平体制のもと超大国へとひた走る中国の「いま」を明らかにし、これからの世界において日本はどうあるべきかを語ります。

講演①

13時10分～13時40分

『中国外交を読み解く ～習近平時代』

宮本 雄二 氏

世界は大きな転換期に入っています。その最大の要因が中国の台頭と言えるでしょう。中国は、2009年以降の試行錯誤を経て、「習近平“新”外交」と呼ぶべきものを作りあげつつあります。これにより中国はより世界での影響力を増すでしょう。しかし、国内には過度なナショナリズムを始めとする圧力や不満も渦巻いています。これらを時に動力としながら動いていく習近平の“新”外交はどこに向かうかを考えます。

講演②

13時40分～14時10分

『習近平の中国はどこへ行く?』

毛里 和子 氏

この秋の19回党大会では、習近平体制がより一層確実なものになることが予想されます。国内の不満と外交戦略のバランスを取りながら、習近平は中国をどうしていくのか、中国内政の今と近未来について、主に次の視点から考えます。

- ◆党の支配の正当性はどこにあるのか
- ◆党内に派閥はあるのか
- ◆ネット文化がポピュリズムの源泉か
- ◆中国は米国に替わる「帝国」の座につくのか? など

パネルディスカッション

14時20分～15時00分

論点整理と質疑応答

本学の大江 志伸特任教授がコーディネーターとして、宮本 雄二 氏と毛里 和子 氏をパネラーにディスカッションを行います。会場からの質問にもお答えします。

